

やさしさやきびしさ

子育てについての親の態度として、「猫っかわいがりに過保護に育てる」と「ガミガミ叱りつけて育てる」の二通りのタイプが挙げられます。また、父親像としても、「物わりのよい甘い父親」と「頭ごなしになるかみなり親父」の二つのタイプがあります。

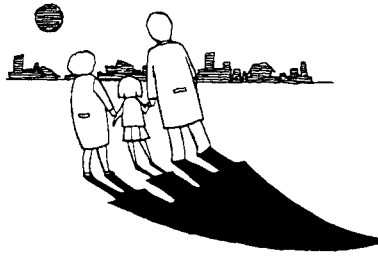
このような親の人間像は、「やさしさ」と「きびしさ」の意味内容を表わしているようでもありますが、また少し違うようにも思われます。そこで今回は、子育てにおける「やさしさ」と「きびしさ」とは、どんな意味を持つのか考えてみることにします。

やさしさについて

母親は子どもを生んでから、おっぱいを与えたり、おむつを代えたり、だっこしたり多くの手をかけ、慈しんで育てます。慈愛あふれる目で我が子を見つめ、肌と肌を触れ合い、あやしたり話しかけたりします。文字どおり手塩にかけて育てられた子どもは、母親のことをどんなことがあっても自分を見捨てない、信頼できる存在として受け止めます。つまり母親と子どもは、「愛情」によって、強い絆で結ばれているのです。

このように、愛情をもって慈しみて育てること、それが「やさしさ」本来の意味であると思います。子どもは、親に真に愛され信頼されていると思うことによって、心が安定し、明るくふるまいます。

そして、親が子どもの長所を認め、はげましてやれば、子どもはやる気を起こし、生活はどんどん向上していくでしょう。



子育ての手抜き

近頃のように物があふれ、便利さを追求する風潮の中で、前述のような手のかかる子育てをしない母親がふえてきたと言われています。

母乳の代わりにミルク、布おむつの代わりに紙おむつが普及しました。両親の多くは仕事をもち、リクリエーションなど社会活動も盛んになってきました。

その結果、今子どもが何を願い、

何を思っているか見えにくくなり、子どもとの接触の量と質も不足し勝ちになります。そうすると、子どもは欲求不満を起こし、やる気をなくしてしまいます。

今のような豊かな時代にこそ、子どもとの接触を密にして、「やさしさ」を示すよう努力しましょう。

きびしさについて

乳幼児は、やがて母親から少しずつ離れ、ハイハイやヨチヨチ歩きをするようになります。そして、親や回りの人たちのことを聞いて、片ことで話せるようになります。

成長するにつれ、子どもは自分の欲求を満たしてもらうために、親に様々なことを要求してきます。空腹の訴えや排便など生理的欲求を始め、他人の物を欲しがると、物を買ってもらいたがるなど物質的欲求、愛情の独占、弟妹へのいじめなど心理的欲求等々。

親は時と場合を考え、それらの欲求や願望を適当に満たしてやる必要があるのです。しかし、求められるままに、何でもかかえてやることは、子どもの健全な成長にとって大きな過ちです。

時と場合によっては、子どもの要求を拒否し、我慢することを教える必要はありません。このように、子どもと妥協しない、親の毅然とした態度、それが「きびしさ」

の本来の意味であると思います。

また、自分の身に危険が及ぶような行為をした時、他人を傷つける行為をした時には、「きびしく」注意をするなり、叱るなりすることが肝要です。幼児からそのように配慮してしつければ、基本的な生活習慣が身につくのです。

やさしさときびしさは裏腹

以上述べましたように、きびしさのないやさしさは、「甘やかし」です。また、やさしさのないきびしさは、「こわもて」です。

したがって、やさしさときびしさは、表裏一体の関係にあると言えます。

やさしさが不足すると、子どもは欲求不満を起こし、不登校や拒食症などの問題行動のもとになります。きびしさが不足すると、我侷勝手な行動により、人に迷惑をかけます。あるいは、依頼心が強く、いつまでも自立できない人間になってしまいます。

「やさしさ」と「きびしさ」をもって、健全な子育てをするよう心がけましょう。

青少年健全育成推進大会が開催されます

青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、広い視野と豊かな情操を培い、非行に陥ることなく、心身ともに健やかに成長することは、市民すべての願いです。青少年健全育成運動の一層の充実と定着化を図るため、「全国青少年健全育成強調月間」にあたり、推進大会が開催されます。

市民の皆さんのご参加をお待ちしています。

日時 11月6日(金)午後1時30分
場所 文化会館大ホール

総務庁長官メッセージ披露
大会宣言
健全育成標語優秀作品表彰
中学生弁論発表
講演 県立総合婦人会館々長
古屋利津子先生



都留市青少年総合対策本部・青少年育成都留市民会議
都留市青少年育成会連合会